

令和4年度第2回各務原市在宅医療・介護連携推進会議 要旨

日時：令和5年3月10日（金） 午後1時30分～2時45分

場所：産業文化センター 4階第1学習室

出席者（敬称略）：酒井 聡 小林 敦 竹内 秀俊 山田 泉 立川 智恵子
森下 裕之 渡邊 みどり 森 裕充 後藤 和代 林 寿子 濱田 幸枝
小川 晃

事務局：高齢福祉課 國井 幸英 高場 浩子 和賀登 直之
在宅医療・介護連携支援ステーション事務局 中平 民恵
在宅歯科医療・介護連携支援室（歯びねす）事務局 岡田 智恵
認知症初期集中支援チーム事務局 田口 省司

■進行概要

1. 会長互選、会長挨拶

2. 議事

(1) 令和4年度の事業報告 [資料1-1](#) [資料1-2](#)

(2) 令和5年度の事業計画 [資料2-1](#) [資料2-2](#) [資料2-3](#)

(3) 認知症初期集中支援チームの活動報告 [資料3](#)

◎開会

◎会長 会長挨拶

「各務原市附属機関設置条例」第6条に基づき、会長に酒井 聡委員を選出

◎議事

(1) 令和4年度の事業報告

事務局（高齢福祉課）が「令和4年度の事業報告」について説明 [資料1-1](#) [資料1-2](#)

・令和4年度の主な事業として①人生会議の普及啓発、②在宅医療・介護連携推進研修会、③在宅医療・介護連携推進座談会について報告。

委員の方からのご意見

・特になし

(2) 令和5年度の事業計画

事務局（高齢福祉課、在宅医療・介護連携支援ステーション）が「令和5年度の事業計画」について説明 [資料2-1](#) [資料2-2](#) [資料2-3](#)

・令和5年度の事業計画として①人生会議の普及啓発、②多職種連携におけるICTの活用研修会の

開催、③第9期高齢者総合プランの策定に向けた課題の抽出についてについて事務局より説明。

委員からのご意見・ご質問と事務局の回答（人生会議の普及啓発）

- ・通所事業所等で出前講座をすることも効果的と考える。
- ・研修会等を開催する専門職は、ケアマネジャーだけではなく、訪問介護や通所介護、訪問看護等の事業所も必要。プランを立ててその先の専門職から伝えていくことも重要と考える。
- ・施設入居時に状況を確認できると良い。
- ・普及啓発を進めていく対象は、高齢者と高齢者に関わる専門職だけでよいのか？
→高齢者のみならず全市民への普及啓発が大切であると考えている。人生会議フォーラムの開催や広報紙の活用により、全市民への啓発を進めていきたい。ただ、出前講座等の参加など、深く考える時間があるのは、高齢者が中心になると考える。そのため、メインとなる対象は高齢者と考える。
- ・本日出た意見から、人生会議普及啓発委員には、介護サービス提供者も入れるべきではないか？
→本日いただいた意見を参考にし、介護サービス提供者もメンバーに加えたいと考えます。また、関係団体と相談しつつ、メンバーを決定していきたい。
- ・人生会議フォーラムについて現状で決まっていることはあるか？
→資料にはないが、令和5年11月23日（木）にあすかホールでの開催を予定している。内容については、今年度、医師が参加されるパネルディスカッションが好評であったため、パネルディスカッションを残しつつ、集客につながる講演などについて今後検討していきたいと考える。

委員からのご意見・ご質問と事務局の回答（多職種連携におけるICTの活用研修会の開催）

- ・ICTの推進は、事業所それぞれの考えがあるので統一することは難しいと思うが、検討していくことは重要。
- ・情報共有ツールを導入することがあったが、しばらく使わないと使い方を忘れてしまう。
- ・国保連からもケアプランデータ連携システムの導入案内が来ているが、利用料がかかるものがある。どのあたりまで市やこの事業が関与していくことができるのか要検討が必要。大きな事業所、小さな事業所で利用料の負担も変わってくることも検討必要。どうしたらよいか戸惑っている事業所も多い。
- ・先生によって利用しているシステムが違うということもある。
- ・業務の効率化を目的にしていると思うが、ICTの導入によって逆に業務が増えないよう注意が必要。
- ・MCSをメインで進めていくのか？
→岐阜県の医師会が推奨しているが、今後検討が必要と考える。

（3）認知症初期集中支援チームの活動報告

事務局（高齢福祉課、認知症初期集中支援チーム事務局）が「認知症初期集中支援チームの活動報告」について説明 資料3

- ・コロナ禍で老夫婦の閉じこもりにより、認知症が進行しているが、気づかず過ごしているケース

があると考えられる。

- 一人の対象者に対して訪問頻度はどの程度か？

→1 例について、6か月間介入しているが、訪問回数については対象者の状態によって様々である。2週に1回、1週に1回の場合もあれば、数回の訪問の場合もある。

- 当市は他市と比べて、介入件数は多いのか？

→介入件数は多い方である。人口規模も多いので人口を考えても平均程度の数は介入できている。また、介入件数が多い市町村は、地域包括支援センターが本事業を受託している場合があり、認知症に関する相談で地域包括が支援したものをすべてカウントしている市町村もある。

(午後2時45分 終了)